

図書館においてある本の中から  
おすすめのものを選びました。  
バラエティに富んだ本を紹介します。

「王子とこじき」

作 マーク・トウエイン



そっくりな王子とこじきの子  
が出会い、入れかわることに…。  
次々とおとずれるピンチ。2  
人は元に戻るのでしょうか？

TAKANOSU LIBRARY

町立  
鷹巣図書館

TEL0996-86-1111

SASUE LIBRARY

町立  
指江図書館

TEL0996-88-6500



「いい言葉が、60歳からの  
いい人生をつくる」  
編 P H P 編集部

つらいときや不安なときで  
も、心を強く豊かにしてくれる  
「言葉」とともに、上手に生きて  
いくための秘訣を紹介します

Pick Up publication

長島文芸

Nagashima Bungo  
ながしまぶんげい

明神俳句会

一鶏につづく鶏鳴初山河  
初漁や港賑はず男ごゑ  
新をろし鼻緒の軋る淑気かな  
朝まだき不断の庭の淑気かな  
空の声地の声聴いて野水仙  
放課後の庭ひろびろと寒波来  
鶏飼いの鶴見る距離の遠くなり  
喜寿の齡淡い夢乗せ宝船  
初風や天草灘の波小舟  
徒然にぬる湯の長湯松の内  
我姿若くうつけよ鏡餅  
またひとつ歳重ねて屠蘇を受く  
初春の光浴び行く貨物船

淵脇 護  
白男川 孝仁  
筑前 初市  
二階堂 妙子  
大堂 光幸  
迫口 君代  
大堂 早苗  
坂口 静子  
関 佳代美  
山田 哲夫  
二階堂 恵子  
山寄加代子  
大堂 正弘

長島短歌会

神木の天辺あたり日の照りに鳴き交ふ目白の声聞  
きて立つ  
雨上がり庭の木回らす蜘蛛の巣が玉散りばめる如  
く輝く  
沢水の流るる窪みに目をやれば石尊洗ひし亡母が  
頭ちくる  
鈍色の空より落ちて散る雪よ命を尽くして生きこ  
し吾は  
蔭に咲く水仙は葉のみ勢ひて花乏しければ匂ひの  
淡し  
冬ざれの如しと思ふ体調優れず波瀾つづきのわが  
生誕日は  
曇りつつ波穏やかに冬の海島影黒く夕映のなか  
デイケアに馴染みて二年相なれて笑ふいちち日夕陽  
が眩し

岩下 ち江  
岩下 房代  
岩下 房代  
榎平 頼子  
米尾 和子  
坂之下 典子  
中山タマエ  
濱田美代子  
濱畑 松枝

冬風は沖波くだき岸壁に飛沫の破片光に返す  
松元 睦子  
市尾 操

創生短歌会

夕べ寒き峡田の隅に朱をこぼす手のひらほどの  
黄櫨の紅葉が 竹之内重信  
残りいる命の日日よ花咲きて花散りて又春が来て  
いる  
ひとつではさみしいからと二つずつお皿を買って  
ひとつを使う  
家道に水仙の白ひしめきて雨にけぶりぬ死が遠く  
ない  
いちばんに咲きたる桜の一輪がはにかむようにた  
めらうように  
叱るとき口出しするなと子は言えり子が叱る  
朝の食卓  
味噌汁の湯気あたたかしくともかくも今日一日が元  
気であれば

宮元 司  
石原百合子  
村上 義彦  
大塚 洋子  
野村 益信  
山下 学

一般作品

「短歌」  
梅の花もう散りしかと見てみれば今を盛りとなり  
にけるかも  
また一つ年を重ねて松飾り庭の蜜柑を橙がわり  
満天の星きらめいて重そうで天草灘に二つ三つ落つ  
人は言う梅に鶯それは無い梅に来るのは鶴目白  
冠雪の歩合定まる富士の山二十五里さきあかず眺  
むる  
今の世はじゃがいも時代生き甲斐や足腰痛い命な  
るか  
「俳句」  
授業止め鶴の帰りを見送らん 脇田 武志

宗方 清明  
中仮屋辰子  
小林 貢  
小林 繁  
母木 良平  
町田 末則